# 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 　提出日：令和3年5月6日　報告者：原　祐樹

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 行事種別 | 研究会 | 行事番号 | 210000092 |
| 開催日 | 現地開催：令和3年4月3日（土）13時～16時30分オンデマンド配信：令和3年4月4日(日)～4月17日(土) |
| 時　間 | 開　始 | ― | 終　了 | ― |
| 場　所 | 　　現地開催（JAあいちビル）、Web配信（Web録画） |
| テーマ | ゼロから始める血液培養 -期待に応える血培とは- |
| 生涯教育履修点数 | 専門教科20点（e-learningに回答した日臨技会員に付与） |
| 司　会 | 名古屋第二赤十字病院　原祐樹 |
| 講　師 | 講 師 1 ：血液培養を取り巻く愛知県の現状　-私たちが今なすべきこと- 　JA愛知厚生連江南厚生病院　舟橋　恵二講 師 2 ：血液培養採取と陽性検体の処理-コンタミ・感染リスクを減らすために- 　JA愛知厚生連稲沢厚生病院　中島　裕人講 師 3 ：陽性検体の24時間対応の現状と課題　-実施施設の運用から学ぶ- 　西尾市民病院　　　　　　　鈴木　更織講 師 4 ：血液培養のTips -知って役立つひと手間-　　　　　　碧南市民病院　　　　　　　太田　晃成講 師 5 ：結果報告と資料作成 -伝わってこそ意味がある-　　JA愛知厚生連安城更生病院　近藤　好 |
| 内 容 | 講演１では、愛知県内における血液培養検査の現状が報告されたが、直近2年ほどで時間外や休日に血液培養検査を実施する施設が非常に増えていることが分かった。また、講演2では血液培養採取時の採血手技、陽性検体を処理する際の手順を分かりやすく講演していただいた。講演3では、24時間対応を始めた施設から運用開始によって見えてきた課題が共有された。講演4では、少しでも早く菌名を中間報告をするために、微生物検査室で実施できる「ひと手間」に関して講演があった。最後の講演では、結果報告を相手にきちんと受け取ってもらうための「伝える工夫」が紹介された。現地開催では、各講演で質疑応答が非常に盛り上がり、有益な意見交換をすることが出来た。 |
| 参加者 | 総数：122名（会員122名） |
| 共催、後援など | 特になし |

2017.7.6

# 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 　提出日：令和3年8月22日　報告者：原　祐樹

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 行事種別 | 基礎講座 | 行事番号 | 210002982 |
| 開催日 | 実習(ライブ配信・Web通話)：令和3年８月７日(土)講義(オンデマンド配信)：令和3年7月30日(金)～8月20日(火) |
| 時　間 | 開　始 | 14時00分 | 終　了 | 17時00分 |
| 場　所 | 　ライブ配信 |
| テーマ | 考動へ！微生物検査の意味を再確認　-理解していますか？その検査- |
| 生涯教育履修点数 | 専門教科20点（実習参加者に付与） |
| 司　会 | 原　祐樹 |
| 講　師 | 講 師 1 ：塗抹検査・グラム染色を考える 　公立陶生病院　　　　　　　　　　　　　　　　　　　廣瀬　明宏講 師 2 ：培養検査を考える 　日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院　　　　山田　直輝講 師 3 ：同定検査を考える 　JA愛知厚生連安城更生病院　　　　　　　　　　　　 杉浦　康行講 師 4：薬剤感受性検査を考える　　　　　名古屋大学医学部附属病院　　 川村 和光 |
| 内 容 | 　講義1では、グラム染色における鏡検の評価ポイント、材料別の起因菌についてわかりやすく解説いただいた。講義2では、培養検査に関する基本的な操作法から検出菌コロニーの特徴、起因菌の判断まで、幅広く解説いただいた。講義3では、試験管培地による同定の手技や判定方法、特徴づけ試験の原理や使いどころなど詳しく解説いただいた。講義4では、薬剤感受性検査における菌種別パターンおよび耐性菌の耐性機序別パターンについて多くの例を提示し、具体的に解説いただいた。　実習は、各種検査材料についての模擬症例にて、検査開始から最終報告するまで流れの中で、情報を電子カルテなどから得る重要性や、どう考え検査を進め、臨床に有益な情報提供ができるかを体感する内容であった。班員と参加者で小グループ組むことで、参加者に手厚く手ほどきを行うことができた。事前に班員で実習シミュレーションを行ったこともあり、スムーズに進行することができた。実習後の参加者アンケートでは、講義・実習ともに肯定的な回答が多く、有益な企画であったと思われる。 |
| 参加者 | 総数：39名（会員39名） |
| 共催、後援など | 特になし |

2017.7.6



# 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 　提出日：令和3年12月10日　報告者：原　祐樹

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 行事種別 | 基礎講座(オンデマンド配信) | 行事番号 | 210008630 |
| 開催日 | 配信期間：令和3年11月6日(土)～19日(金) |
| 時　間 | 開　始 | ― | 終　了 | ― |
| 場　所 | 　オンデマンド配信 |
| テーマ | 考動へ！微生物検査の意味を再確認　-理解していますか？その検査- |
| 生涯教育履修点数 | 専門教科20点（e-learning回答者に付与） |
| 司　会 | ― |
| 講　師 | 講 師 1 ：塗抹検査・グラム染色を考える 　公立陶生病院　　　　　　　　　　　　　　　　　　　廣瀬　明宏講 師 2 ：培養検査を考える 　日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院　　　　山田　直輝講 師 3 ：同定検査を考える 　JA愛知厚生連安城更生病院　　　　　　　　　　　　 杉浦　康行講 師 4：薬剤感受性検査を考える　　　　　名古屋大学医学部附属病院　　 川村 和光 |
| 内 容 | 　8月に基礎講座を開催したところ、講義部分のオンデマンド配信要望を多くもらったことから本企画を実施した。講義1では、グラム染色の手技や解釈についてわかりやすく解説いただいた。講義2では、培養検査に関して基本的な事柄から主要な菌の特徴について幅広く解説いただいた。講義3では、同定検査の手技や判定方法、追加試験の方法や使用ポイントなどを解説いただいた。講義4では、薬剤感受性検査について具体的な例を挙げながら日常業務に近い形で実践できるよう工夫をこらした講演をいただいた。最終的に申込者は225名、e-learningまで回答をした者は131名で基礎的な技術に関する企画に対する需要の大きさを改めて認識することができた。また、8月はライブ配信であったため参加者が限られていたが、再度オンデマンド配信としたことでより多くの方が聴講する機会を提供することが出来、会員の利益に貢献できたと考えられた。 |
| 参加者 | 総数：131名（会員131名） |
| 共催、後援など | 特になし |

2017.7.6

# 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 　提出日：令和4年1月10日　報告者：原　祐樹

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 行事種別 | 講演会（ライブ＋オンデマンド） | 行事番号 | 210010633 |
| 開催日 | ライブ配信：令和3年12月11日(土) 15時～17時オンデマンド配信：令和3年12月18日（土）～31日（金） |
| 時　間 | 開　始 | ― | 終　了 | ― |
| 場　所 | ライブ配信＋オンデマンド配信 |
| テーマ | Case Based Discussion-微生物検査技師と感染症医の視点から考える感染症- |
| 生涯教育履修点数 | 専門教科20点（ライブ配信視聴またはe-learning回答で付与） |
| 司　会 | 日赤愛知医療センター名古屋第二病院　原　祐樹 |
| 講　師 | JA愛知厚生連　安生更生病院　感染症科 鈴木　大介　部長 |
| 内 容 | 　今回、Zoomの投票機能を利用して講師の先生からの質問に対して視聴者が答えながら講演を進行していくという試みを実施した。投票結果を基に司会者と講師が議論を深めることで、講演内容に加えて関連する知識を学ぶ機会にもなった。投票結果が割れることもあり、見解が分かれた部分をオンタイムでしっかりと議論できるというのは双方向型ライブ配信の強みであると感じた。聴講者からは、「細菌に関する知識はもちろんだが、症例に付随する臨床的知識を得る貴重な機会になった」といった感想もあり、講演会は成功であったと考えられた。今回、ライブ配信に加えてオンデマンド配信も行うことでライブ配信を視聴できない会員の聴講機会を増やすよう試みた。申込者は120名を越えており、県外からの申込もあったことから聴講機会の拡張という目的は達成できたと考えられた。一方でライブ配信の視聴は班員も含めて40名程度にとどまっており、オンデマンド配信の需要の高さを実感する結果となった。今回の反省を来年度以降の企画に反映していきたいと考えている。 |
| 参加者 | 総数：77名（会員77名） |
| 共催、後援など | 特になし |

2017.7.6

# 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 　提出日：令和4年2月24日　報告者：原　祐樹

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 行事種別 | 研究会（オンデマンド） | 行事番号 | 210014716 |
| 開催日 | 配信配信：令和4年2月5日（土）～18日（金） |
| 時　間 | 開　始 | ― | 終　了 | ― |
| 場　所 | オンデマンド配信 |
| テーマ | 実際どうしてる？　微生物検査の精度管理 |
| 生涯教育履修点数 | 基礎教科20点（e-learning回答で付与） |
| 司　会 | なし |
| 講　師 | 1.　令和3年度愛臨技精度管理報告JA愛知厚生連江南厚生病院　河内　誠2.　精度管理、最低限何をやればいい？小牧市民病院　　　　　　　西尾　美津留3.　ISO取得施設の精度管理を覗いてみよう豊橋市民病院　　　　　　　山本　優　4.　各種サーベイランス事業の紹介と活用方法JA愛知厚生連江南厚生病院　舟橋　恵二 |
| 内 容 | 講演1では、本年度の愛臨技精度管理調査について、詳細な解説を行った。本年度からの大きな変更点として、釣菌設問の設定ならびに判定基準の変更が行われており、その意図の解説を含めた本講演は例年以上に重要と思われた。講演2では、微生物検査室の精度管理について、最低限何を行っていけばよいのか、班員アンケートを交えて解説を行った。各施設の工夫が大いに参考になった一方、班員施設ならびにISO取得施設の中でも対応に大きなバラつきがあり、微生物検査における精度管理がまだまだ発展途上であると再認識した。講演3では、ISO15189取得施設の実際について具体例を交えて提示した。日常の精度管理について具体的な事例を提示することで、自施設でも何か取り入れることができないかを考えて頂けるような講演であった。講演4では、各種サーベイランス事業を通じて、他施設とのデータ比較を行うことにより精度管理・精度保証を行うことの重要性について解説を行った。 |
| 参加者 | 総数：名（会員名） |
| 共催、後援など | 特になし |

2017.7.6